



第50回全国高等学校総合文化祭

あきた総文2026

新聞部門 実施要領



大会マスコットキャラクター
「あきたぽ」

開催期間：令和8年7月28日（火）～7月30日（木）

主会場：潟上市市民会館かたりあん、
潟上市市民会館天王館



目次

1	新聞部門大会基本方針・大会役員等	2
2	大会日程	3
3	大会参加にあたって	4
4	第30回全国高等学校新聞年間紙面審査賞 入賞校及び奨励賞校	5
5	参加校一覧	6
6	会場周辺図	7
7	会場案内図	8
8	シャトルバス	13
9	交流新聞取材コース	14
10	研修取材	26
11	令和8年度全国新聞専門部 役員名簿	27
12	緊急時の対応などについて	28
13	個人情報の取扱いについて	32

実施要領に関する問い合わせ：

第50回全国高等学校総合文化祭（あきた総文2026）

新聞部門代表委員 秋田県立金足農業高等学校 教諭 佐藤 和悦

tel: 018—873—3311 fax: 018—873—3313

email: shinbun@e-akita.ed.jp

部門携帯： 080—5503—3556（平日9:00～18:00）

1 新聞部門大会基本方針・大会役員等

【大会基本方針】

世界に誇る白神の山々を遠くに望み、八郎湖や日本海のきらめき、四季折々の実りに抱かれた秋田県湯上市市民センターかたりあんをメイン会場に、第50回全国高等学校総合文化祭を開催します。

12の取材コースでは、自然・歴史・文化・産業など多彩なフィールドを巡り、土地に息づく人々の思いや挑戦を取材します。私たちは、地域が守り育ててきた価値を見つめ、新しい世代の視点で発信することで、秋田から全国へ、そして世界へ、感動と共感の輪を広げる大会を目指します。

楽章 ～がくしょう～

秋田の自然、歴史、文化、産業——出会うすべてが一つの「章」となる。全国の高校生の言葉と感性が重なり合い、湯上市から未来へ響く新たな物語を奏でる大会。

楽習 ～がくしゅう～

見て、聞いて、問い、考える。取材や交流を通して、本物の学びを楽しみながら深める。仲間と刺激し合いながら挑戦を重ね、自分自身の可能性を広げていく大会。

楽縁 ～がくえん～

地域の方々との出会い、全国の仲間との出会い。その一つ一つの縁が秋田の地で結ばれ、信頼と友情へと育っていく。笑顔と感謝が広がり、未来へつながる大会。

【大会役員】

委員長	堀越 英範	高等学校文化連盟全国新聞専門部会長
副委員長	佐藤 かおる	第50回全国高等学校総合文化祭秋田県実行委員会 新聞部門部会長 (秋田県高等学校文化連盟新聞専門部会長)
委員	富安 道伸 佐藤 和悦	高等学校文化連盟全国新聞専門部事務局長 第50回全国高等学校総合文化祭秋田県実行委員会 新聞部門代表委員

【全国高校年間紙面審査賞 審査員】

審査員	内山 康正	元全国高等学校文化連盟新聞部門常任理事
審査員	菅野 昭浩	元北海道高等学校文化連盟新聞専門委員
審査員	武内 義明	元高等学校文化連盟全国新聞専門部常任理事
審査員	鎌田 寛二	元全国高等学校文化連盟新聞部門常任理事
審査員	中根 淳一	元高等学校文化連盟全国新聞専門部常任理事・『新聞と教育』編集長
審査員	山本 紀子	元兵庫県立高校新聞部顧問

【大会講師】

交流新聞作成指導	長丸 和生	高等学校文化連盟全国新聞専門部常任理事
交流新聞講評	谷口 豊	前高等学校文化連盟全国新聞専門部事務局長

2 大会日程 会場：潟上市市民センターかたりあん・天王館 7月28日(火)

全国高等学校新聞年間紙面審査賞最終審査会	8:30~13:00	天王館 研修室6
*受付	12:30~	かたりあん テラス
高等学校文化連盟全国新聞専門部理事会	13:10~14:50	天王館 研修室5
顧問連絡会	15:00~15:40	天王館 研修室5

1 交流会・交流新聞

(1) 生徒交流会	15:00~15:40	かたりあん 多目的ホール
(2) 交流新聞講話 講話「交流新聞作成と取材活動のポイント」 高等学校文化連盟全国新聞専門部常任理事	15:50~16:20	かたりあん 多目的ホール
(3) 班別編集会議	16:20~18:00	長丸 和生(高岡第一高等学校教諭) かたりあん 多目的ホール

7月29日(水)

*受付	8:10~	かたりあん ホワイエ
2 開会行事		
(1) 開会式	9:00~ 9:20	多目的ホール
・開会の言葉 第50回全国高等学校総合文化祭秋田県実行委員会新聞部門 生徒部門別部会 副部会長 笹木 夏奈(秋田県立大館鳳鳴高等学校)		
・あいさつ 第50回全国高等学校総合文化祭秋田県実行委員会新聞部門 生徒部門別部会 部会長 中田 音花(秋田県立能代高等学校)		
潟上市長 鈴木 雄大		
高等学校文化連盟全国新聞専門部会長 堀越 英範(三重県立名張高等学校長)		
第50回全国高等学校総合文化祭秋田県実行委員会新聞部門 部会長 佐藤 かおる(秋田県立秋田西高等学校長)		
(2) 全国高等学校新聞年間紙面審査賞表彰式	9:20~10:00	多目的ホール
・審査員紹介		
・審査結果発表・講評		
・表彰 高等学校文化連盟全国新聞専門部会長 堀越 英範(三重県立名張高等学校長)		
・受賞校代表あいさつ		
3 交流新聞		
*弁当配付	10:10~	ホワイエ
(1) 班別編集会議	10:10~10:40	多目的ホール
(2) 昼食	10:40~11:10	多目的ホール 研修室2・3
(3) 取材活動	11:20~15:20	〈県内各所〉
Aコース 体験型観光による地域活性化	Bコース	こんにちは!ハタハタ!~持続可能な水産業~
Cコース 「男鹿のナマハゲ」に迫る	Dコース	秋田の農業 ~つなぐ・つくる・つづける~
Eコース 男鹿半島・大潟村ジオパーク~大地の歴史~	Fコース	八郎湖の環境改善に向けた取組
Gコース 五城目町の文化振興と地域振興	Hコース	農聖・石川理紀之助と花の町・昭和
Iコース 潟上市の伝統産業と文化振興	Jコース	変わりゆく海岸線~風力発電とともに~
Kコース 秋田の教育~学びと自然との融合~	Lコース	港町・土崎の歴史と文化~北前船と空襲~
(4) 交流新聞制作	15:20~18:00	多目的ホール 研修室2・3

7月30日(木)

*受付	8:10~	ホワイエ
(5) 交流新聞制作	9:00~11:00	多目的ホール 研修室2・3
*弁当配付	11:00~	ホワイエ
(6) 昼食	11:00~12:00	多目的ホール 研修室2・3
4 生徒活動発表	12:00~12:40	多目的ホール
5 交流新聞講評	12:45~13:30	多目的ホール
前高等学校文化連盟全国新聞専門部事務局長	谷口 豊(石川県立金沢泉丘高等学校講師)	
6 閉会式	13:35~13:55	多目的ホール
・大会回顧 高等学校文化連盟全国新聞専門部事務局長 富安 道伸(三重県立相可高等学校教諭)		
・次年度開催県代表あいさつ		
石川県実行委員会新聞部門部会長 桶川 政江(石川県立金沢二水高等学校長)		
石川県実行委員会生徒新聞部門部会長 西野 晴耕(石川県立金沢錦丘高等学校)		
・お礼の言葉 第50回全国高等学校総合文化祭秋田県実行委員会新聞部門生徒部門別部会部会長 中田 音花(秋田県立能代高等学校)		
・閉会の言葉 第50回全国高等学校総合文化祭秋田県実行委員会新聞部門生徒部門別部会副部会長 笹木 夏奈(秋田県立大館鳳鳴高等学校)		
7 研修取材(任意)	14:20~17:30	秋田市千秋公園周辺施設

参加校の新聞作品展示 7月28日(火)~30日(木) 9:00~18:00(最終日は12:30まで)

3 大会参加にあたって

(1) 会場について

- ① 受付は1日目はかたりあんテラスで、2、3日目はかたりあんホワイエで行います。
- ② 湯上市市民センターかたりあんは上履きは不要ですが、天王館はスリッパ等への履き替えになります。
- ③ JR二田駅はそれほど大きな駅ではないうえに列車の本数も限られているため、通勤時間とも重なり、朝夕ともに混雑が予想されます。シャトルバスもご利用ください。（詳しくは「8 シャトルバスについて」）
- ④ 駐車場は、かたりあん駐車場を使用しますが大会運営員も使用し、駐車可能台数に限りがありますので定められたスペースへの駐車をお願いします。また、警備員は配置しませんので、ご利用の際は気をつけてご利用ください。
- ⑤ 新聞展示は湯上市市民センター天王館2階で行います。天王館はスリッパ等への履き替えとなりますので内履きを持参されても構いません。
- ⑥ 式典・全体行事の間は携帯電話やスマートフォンは電源を切るかマナーモードに切替えてください。
- ⑦ 救護室はかたりあんの楽屋です。体調不良の場合は無理をせず大会運営員にお知らせください。
- ⑧ 貴重品は各自で管理してください。
- ⑨ 注文した弁当の空き箱、館内で購入した飲料の容器以外のゴミは、原則各自でお持ち帰りください。館内のゴミ箱は使用できません。交流新聞作成で出た紙くず等を捨てるゴミ袋は主催者で用意します。

(2) 昼食弁当について

- ① 宿泊等サポートセンターを通じて弁当を注文された場合、弁当の引き換えはかたりあんホワイエで学校ごとに行います。弁当の引換券を忘れずにお持ちください。食べ終わった弁当の空き箱は、ホワイエで回収します。
- ② 弁当を注文されなかった場合、各自昼食を持参してください。飲料につきましてはかたりあん館内の自販機は使用できます。

(3) 交流新聞について

- ① 新聞制作に必要な文房具類について、以下の物品は主催者で用意します。これ以外の物品や鉛筆・消しゴム等の筆記用具などは各自でご持参ください。
交流新聞用レイアウト用紙、交流新聞原稿用紙、サインペン(黒・カラー)、修正テープ、定規(30cm)、はさみ、カッター、カッティングボード、のり、スクリーントーン
- ② 取材活動用のカメラは、各自で御持参ください。SDカードについては各班2枚を主催者で用意します。
- ③ 一般的なパソコン、プリンター、カードリーダー、さらに、スマートフォンで撮影した写真をパソコンに取り込むことができる環境は用意します。iPhoneでそのまま撮影すると拡張子が「HEIC」になりワードで読み込めないので、「JPEG」で保存するよう設定し直して撮影してください。
- ④ 生徒は、取材先や取材内容に関わることを、事前に調べて大会に臨んでください。各班の顧問の先生は、班の生徒の新聞作成をご指導ください。
- ⑤ 取材活動時の雨天や暑さに備えて、各自雨具や帽子等をご準備ください。また、熱中症対策として水分補給をするなど、体調管理には十分にご注意ください。
- ⑥ 貸切バスで移動するコースの人は、バス駐車場へは大会運営員の指示に従って班ごとに移動してください。安全に留意して、時間に余裕をもって集合してください。

(4) その他

- ① 悪天候など急な事態への対応については、事前に巻末の緊急時対応マニュアルをご一読ください。
- ② 交流新聞の班名簿は、参加校へのメール等でお知らせします。
- ③ 本実施要領の記載内容は、変更になる場合もあります。今後の連絡、案内、変更などは、大会公式ウェブサイト、参加校へのメール等でお知らせします。
- ④ 撮影した写真は新聞作成のみに使用し、SNSへの掲載等には使用しないでください。
- ⑤ 各班に所属する参加者は、その班の生徒・顧問の人数分の最新号（もしくはこの1年間で発行した新聞）を持参してください。1日目の生徒交流会で班のメンバーに1部ずつ配付してください。

(5) 感染症予防対策について

大会参加時のマスクの着用は、個人の判断に委ねます。ただし、感染防止対策としてマスクの着用が効果的な場面等や症状がある場合等においては、マスクの着用を推奨します。（詳しくは「12 緊急時の対応などについて」）

4 第30回全国高校新聞年間紙面審査賞 入賞校 及び 奨励賞校 入賞校 43校

高校名	都道府県	高校名	都道府県	高校名	都道府県
旭川工業高校	北海道	不動岡高校	埼 玉	韮山高校	静 岡
小樽双葉高校	北海道	松山高校	埼 玉	沼津東高校	静 岡
帯広柏葉高校	北海道	吉祥女子高校	東 京	富士東高校	静 岡
札幌開成中等教育学校	北海道	錦城高校	東 京	桜丘高校	三 重
札幌啓成高校	北海道	立川高校	東 京	虎姫高校	滋 賀
士別翔雲高校	北海道	慶應義塾湘南藤沢高等部	神奈川	崇徳高校	広 島
芽室高校	北海道	向上高校	神奈川	高知農業高校	高 知
寒河江高校	山 形	長岡農業高校	新 潟	修猷館高校	福 岡
安積高校	福 島	石動高校	富 山	福岡大学附属大濠高校	福 岡
福島高校	福 島	富山国際大学付属高校	富 山	八女学院高校	福 岡
矢板中央高校	栃 木	金沢泉丘高校	石 川	西陵高校	長 崎
川越高校	埼 玉	金沢大学附属高校	石 川	長崎日本大学高校	長 崎
川越東高校	埼 玉	上田西高校	長 野	長崎南高校	長 崎
久喜北陽高校	埼 玉	松本県ヶ丘高校	長 野		
越谷北高校	埼 玉	清水桜が丘高校	静 岡		

奨励賞校 15校

高校名	都道府県	高校名	都道府県	高校名	都道府県
旭川工業高校定時制	北海道	太田高校	群 馬	三島北高校	静 岡
倶知安高校	北海道	お茶の水女子大学 附属高校	東 京	倉吉西高校	鳥 取
室蘭栄高校	北海道	高浜高校	神奈川	嘉穂高校	福 岡
郡山萌世高校	福 島	清水南高校	静 岡	新宮高校	福 岡
古河中等教育学校	茨 城	藤枝東高校	静 岡	松陽高校	鹿児島

5 参加校一覧

参加校133校

NO.	都道府県	参加校名	NO.	都道府県	参加校名	NO.	都道府県	参加校名
1	北海道	北海道倶知安高等学校	46	神奈川県	神奈川県立厚木高等学校	91	兵庫県	兵庫県立神戸鈴蘭台高等学校
2	北海道	北海道帯広柏葉高等学校	47	神奈川県	向上高等学校	92	和歌山県	和歌山県立向陽高等学校
3	北海道	北海道旭川工業高等学校	48	神奈川県	青山学院横浜英和高等学校	93	和歌山県	近畿大学附属和歌山高等学校
4	北海道	北海道北見柏陽高等学校	49	神奈川県	横浜雙葉高等学校	94	和歌山県	開智高等学校
5	北海道	北海道土別翔雲高等学校	50	新潟県	新潟県立新潟中央高等学校	95	鳥取県	鳥取県立倉吉東高等学校
6	北海道	小樽双葉高等学校	51	新潟県	新潟県立巻高等学校	96	鳥取県	鳥取県立鳥取商業高等学校
7	北海道	北海道小樽桜陽高等学校	52	新潟県	新潟県立長岡農業高等学校	97	鳥取県	鳥取学園鳥取城北高等学校
8	北海道	市立函館高等学校	53	新潟県	新潟県立糸魚川高等学校	98	島根県	島根県立出雲工業高等学校
9	北海道	市立札幌開成中等教育学校	54	富山県	富山県立富山商業高等学校	99	島根県	島根県立出雲高等学校
10	北海道	北海道旭川永嶺高等学校	55	富山県	富山国際大学付属高等学校	100	島根県	島根県立安来高等学校
11	北海道	北海道札幌啓成高等学校	56	富山県	富山県立石動高等学校	101	岡山県	山陽学園高等学校
12	北海道	北海道清水高等学校	57	富山県	富山県立高岡南高等学校	102	広島県	広島県立尾道北高等学校
13	北海道	北海道芽室高等学校	58	富山県	高岡第一高等学校	103	広島県	崇徳高等学校
14	岩手県	岩手県立大船渡高等学校	59	石川県	石川県立羽咋高等学校	104	広島県	広島市立美鈴が丘高等学校
15	岩手県	岩手県立高田高等学校	60	石川県	石川県立金沢二水高等学校	105	山口県	山口県立下関西高等学校
16	宮城県	古川学園高等学校	61	石川県	金沢大学附属高等学校	106	山口県	山口県立宇部高等学校
17	宮城県	宮城県工業高等学校	62	石川県	石川県立金沢泉丘高等学校	107	山口県	山口県立小野田工業高等学校
18	宮城県	宮城県石巻高等学校	63	福井県	北陸高等学校	108	山口県	山口県立柳井高等学校
19	秋田県	秋田県立大館鳳鳴高等学校	64	福井県	福井県立美方高等学校	109	徳島県	徳島県立城南高等学校
20	秋田県	秋田県立秋田西高等学校	65	福井県	福井県立鯖江高等学校	110	香川県	香川県立三木高等学校
21	秋田県	秋田県立能代高等学校	66	山梨県	山梨県立都留高等学校	111	香川県	香川県立高松東高等学校
22	山形県	山形県立寒河江高等学校	67	山梨県	山梨県立韮崎工業高等学校	112	高知県	高知県立山田高等学校
23	山形県	山形県立山辺高等学校	68	長野県	上田西高等学校	113	高知県	高知県立高知追手前高等学校
24	山形県	山形明正高等学校	69	長野県	長野県上田高等学校	114	高知県	高知県立高知農業高等学校
25	山形県	山形県立東桜学館高等学校	70	長野県	長野県松本泉ヶ丘高等学校	115	福岡県	福岡県立修猷館高等学校
26	福島県	福島県立安積高等学校	71	長野県	長野県屋代高等学校	116	福岡県	八女学院高等学校
27	福島県	福島県立福島高等学校	72	長野県	長野県長野高等学校	117	福岡県	福岡県立嘉穂高等学校
28	茨城県	つくば秀英高等学校	73	静岡県	静岡県立三島北高等学校	118	福岡県	福岡県立新宮高等学校
29	茨城県	茨城県立古河中等教育学校	74	静岡県	静岡県富士見高等学校	119	福岡県	福岡大学附属大濠高等学校
30	茨城県	岩瀬日本大学高等学校	75	静岡県	静岡県立沼津東高等学校	120	佐賀県	弘学館高等学校
31	栃木県	矢板中央高等学校	76	静岡県	静岡県立清水南高等学校	121	佐賀県	佐賀県立有田工業高等学校定時制
32	群馬県	群馬県立前橋女子高等学校	77	静岡県	静岡県立藤枝東高等学校	122	長崎県	長崎県立西陵高等学校
33	群馬県	群馬県立高崎女子高等学校	78	静岡県	静岡市立清水桜が丘高等学校	123	長崎県	長崎県立長崎南高等学校
34	群馬県	群馬県立高崎高等学校	79	静岡県	静岡県立富士東高等学校	124	長崎県	長崎日本大学高等学校
35	埼玉県	川越東高等学校	80	静岡県	静岡県立韭山高等学校	125	長崎県	長崎県立長崎工業高等学校
36	埼玉県	埼玉県立川越高等学校	81	三重県	三重県立上野高等学校	126	大分県	大分県立大分上野丘高等学校
37	埼玉県	埼玉県立松山高等学校	82	三重県	三重県立名張高等学校	127	大分県	大分県立大分豊府高等学校
38	埼玉県	埼玉県立不動岡高等学校	83	三重県	三重県立四日市高等学校	128	宮崎県	宮崎県立宮崎大宮高等学校
39	埼玉県	埼玉県立久喜北陽高等学校	84	三重県	桜丘高等学校	129	宮崎県	宮崎学園高等学校
40	埼玉県	埼玉県立越谷北高等学校	85	滋賀県	滋賀県立彦根東高等学校	130	宮崎県	宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校
41	東京都	吉祥女子高等学校	86	滋賀県	滋賀県立石山高等学校	131	宮崎県	宮崎県立都城西高等学校
42	東京都	昭和第一学園高等学校	87	滋賀県	滋賀県立膳所高等学校	132	鹿児島県	鹿児島県立甲南高等学校
43	東京都	東京都立立川高等学校	88	滋賀県	滋賀県立虎姫高等学校	133	鹿児島県	鹿児島県立松陽高等学校
44	東京都	錦城高等学校	89	兵庫県	兵庫県立御影高等学校			
45	神奈川県	慶應義塾湘南藤沢高等部	90	兵庫県	兵庫県立明石城西高等学校			

6 会場周辺図



* JR二田駅から徒歩5分

【交通案内】

■ 秋田空港利用の場合

[秋田空港]



[JR秋田駅]



[JR二田駅]

リムジンバス(約40分)

JR男鹿線(約30分)

■ JR利用の場合(秋田駅から男鹿線直通)

[JR秋田駅]



[JR二田駅]

JR男鹿線(約30分)

■ JR利用の場合(奥羽本線上り 追分駅で乗り換え 男鹿線下り)

青森方面から



[JR追分駅]



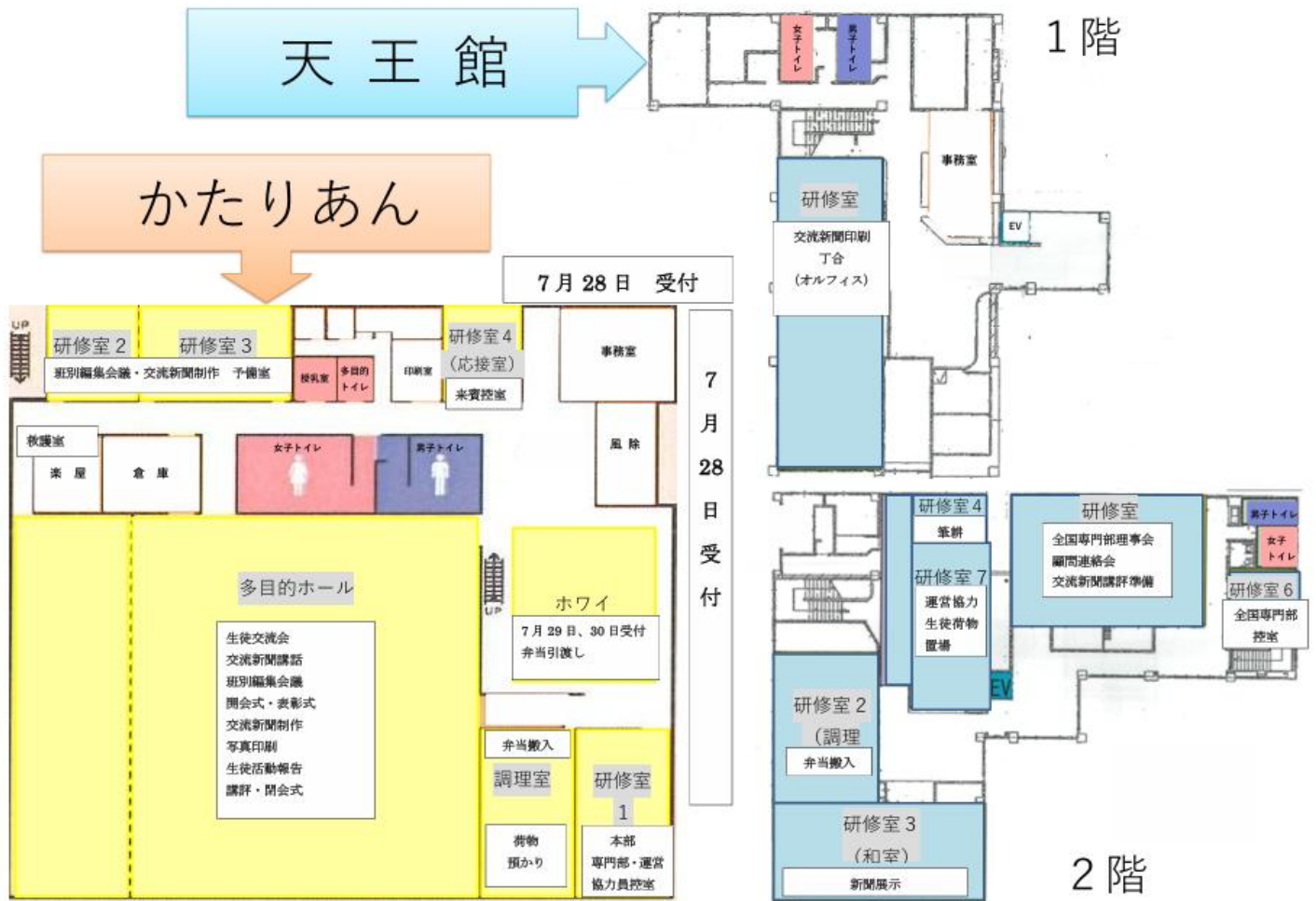
[JR二田駅]

奥羽本線上り

男鹿線(約15分)

7 会場案内図

(1) 全体図



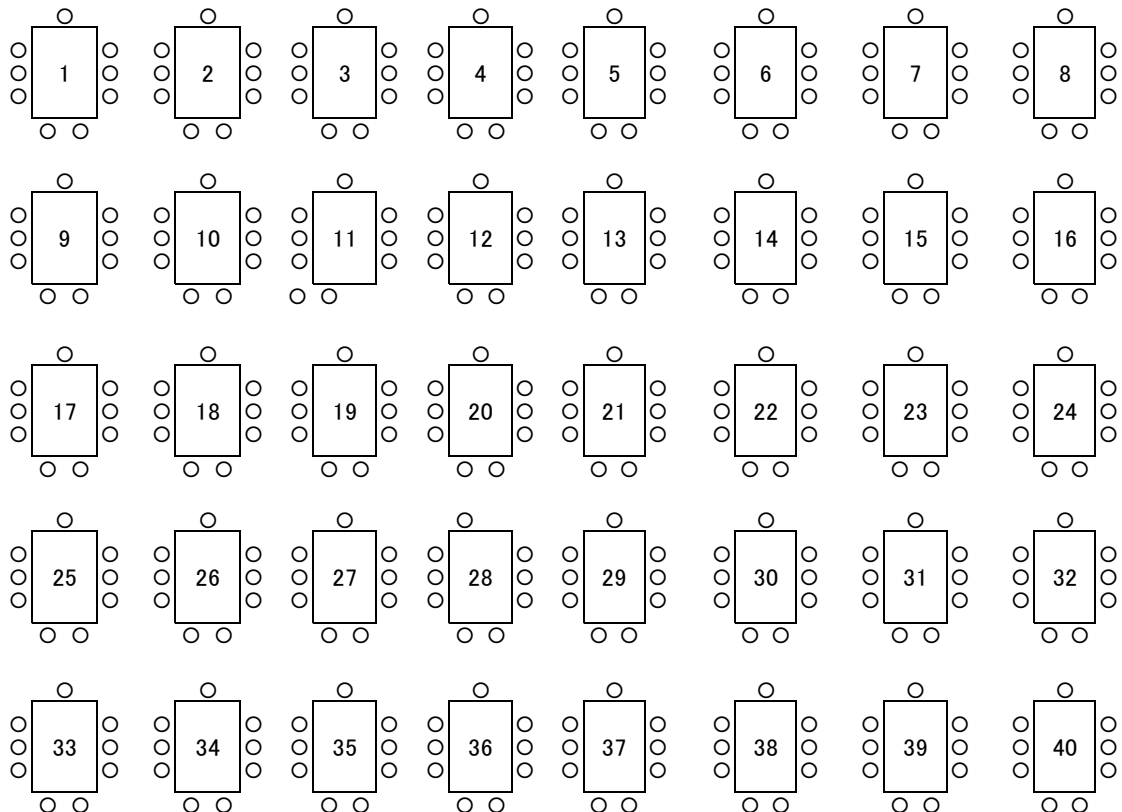
※実際のかたりあんと天王館は隣接しておらず、道路を挟んで向かい側に位置しています。

・開会式 ・表彰式 ・交流新聞班別編集会議:取材出発前まで (7/29)

(3) 生徒交流新聞制作会場①(かたりあん多目的ホール)

・交流新聞制作、講評、閉会行事(7/29、30)

ステージ



(出入り口)

※交流新聞取材に出かけている間に新聞制作用に1班のテーブルをすべて3つ使用に並べ替える

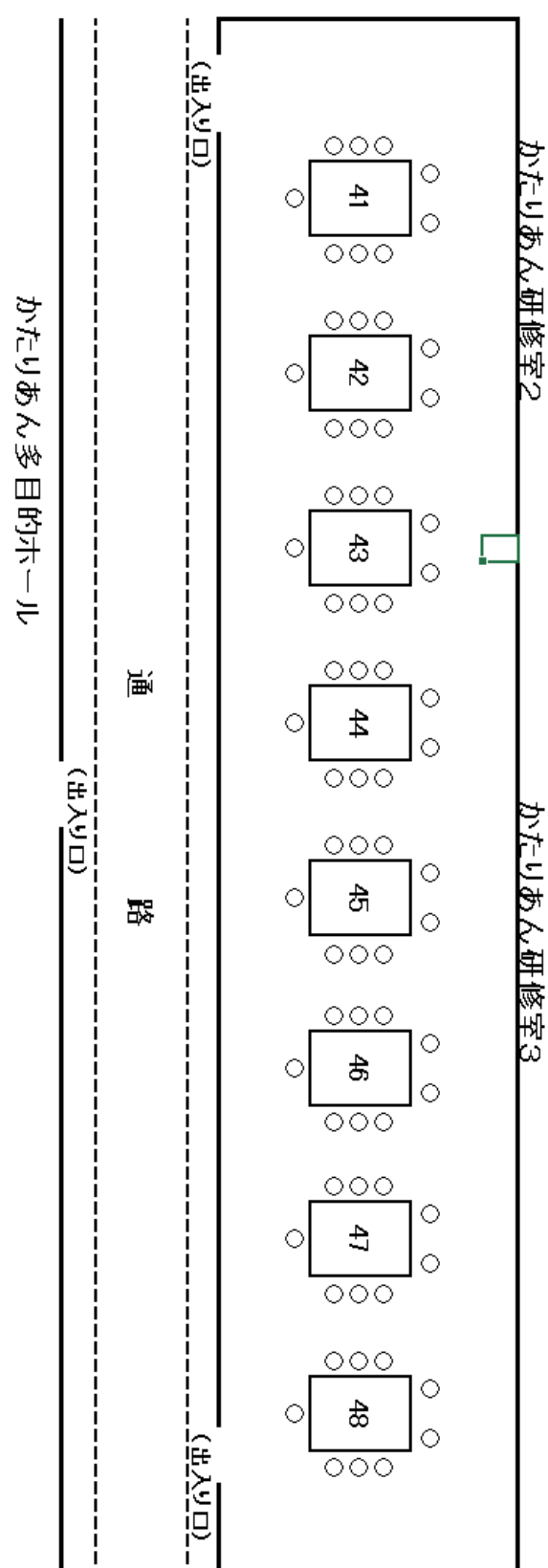
※多目的ホールに入りきれない41～48班は取材から戻り次第研修室2、3へ移動

○○
○○

【觀覽席】

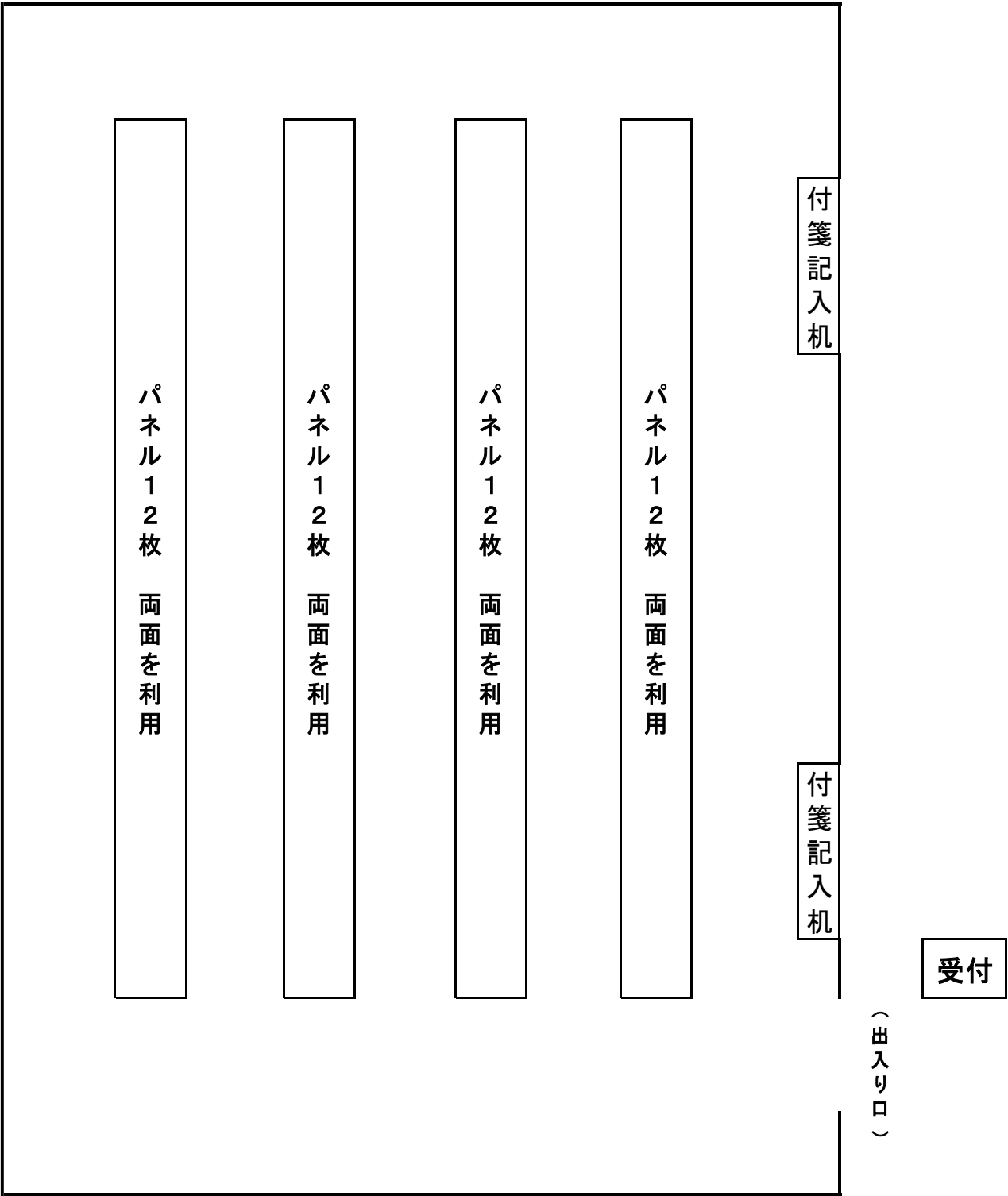
(出入り口)

(4) 交流新聞制作会場②(かたりあん研修室2・3)



(5) 新聞展示会場(天王館2階 研修室3)

・新聞展示会場(7/28～30)



※新聞展示会場の天王館への入館は内履き、スリッパ等への履き替えとなります。

8 シャトルバス

(1) シャトルバス（有料）のご案内（計画予定）

配車区間： JR秋田駅ーかたりあん 間

JR男鹿駅ーかたりあん 間

料 金： 片道1,000円～

申請中のものです。ご参考までに

配車予定： 7月28日（火）JR秋田駅東口発かたりあん行き13:30,13:40,13:50（3台）
かたりあん発秋田駅方面18:20（3台）
かたりあん発男鹿駅方面18:20（2台）
7月29日（水）JR秋田駅東口発かたりあん 7:30,7:40,7:50（3台）
JR男鹿駅発かたりあん 8:00（2台）
かたりあん発秋田駅方面18:20（2台）
かたりあん発男鹿駅方面18:20（2台）
7月30日（木）JR秋田駅東口発かたりあん行き 7:30,7:40,7:50（3台）
かたりあん発秋田駅方面14:20（3台）

申込受付： サポートセンターからの配宿回答が6月16日から順次なされ新聞部門参加者の配宿状況に合わせてシャトルバスの計画、申し込みが行われます。

6月17日（水）～25日（木）（予定）あきた総文2026ウェブサイト「宿泊等サポートセンター」で申込

*最寄りのJR二田駅もご利用いただけますが、便数が少ないため朝夕とも混雑が予想されます。

*シャトルバスは最少催行人員に満たない場合は配車を中止する場合がございます。ご了承ください。

(2) 発着場所

- かたりあん：かたりあん奥の駐車場
- JR秋田駅前：JR秋田駅東口
- JR男鹿駅前

～かたりあん周辺 キッチンカーの出店について～

28日（火）13:00～17:00頃

29日（水）15:30～18:30頃

地元の食材を利用した軽食が提供される予定です。
29日の日程終了後にご利用になりたい場合は、シャトルバスの申込も含め、ご検討ください。

9 交流新聞取材コース

A コース	体験型観光による地域活性化	三種町
----------	---------------	-----

このコースでは、三種町の夏を代表するものを取材します。収穫量日本一、全国シェア9割の三種町の「じゅんさい」は、かつては日本全国で観察されましたが、今では4都県で絶滅、22県で絶滅または準絶滅危惧種になっています。また、「みたねサンドクラフト」は砂像彫刻の展示をメインとした地域活性化を図るイベントで、今年で30回目の開催です。

1. 担当職員 新聞専門部から1名、運営協力校から1名
2. 担当生徒 新聞専門部加盟校または運営協力校から2名
3. 取材人員 4班（1～4班、1班は生徒6人＋顧問2人が基本）、
担当教員2名、担当生徒2名、視察、全国理事 計38名前後
4. 取材対象 阿部農園（じゅんさい農家）・三種町役場職員（砂像イベント運営）
5. 移動手段 借り上げバス1台（大型バス）
6. 行 程

時刻	場所	移動	活動内容	備考
11:20	潟上市民センターかたりあん 出発	バス		
12:00	阿部農園到着		・摘み取り体験（各班2名）20分 ・取材20分、 ・じゅんさい試食	
13:00	阿部農園出発	バス		
13:20	じゅんさいの館到着			※トイレ休憩
13:35	じゅんさいの館出発	バス		
13:50	釜谷浜到着		・班員を2：4の2つに分ける ・砂像作家の保坂俊彦さんからの 説明15分、質疑応答10分 →Zoom対応（各班1、2名） ・実行委員より説明15分、質疑応 答10分 ・自由取材	
14:30	釜谷浜出発	バス		
15:00	潟上市民センターかたりあん 到着			

7. 注意点

- ・熱中症対策として、各自帽子や日傘、水分補給等の準備をお願いします。阿部農園では、場所が狭いため日傘は使用はご遠慮ください。
- ・沼や砂浜などがありますので、歩きやすい靴で参加してください。
- ・雨天が予想される場合は雨具の用意をお願いします。
- ・店舗や施設が営業中で、一般の方もいらっしゃるの、マナーを守って取材してください。じゅんさいの館および釜谷浜の海の家への取材はご遠慮ください。
- ・その他写真撮影、取材は許可をいただいた場合のみ可能です。

B コース	こんにちは！ハタハタ！～持続可能な水産業～	男鹿市
----------	-----------------------	-----

秋田の県魚「ハタハタ」は魚偏に「神」と書き、日本海に雷が鳴ると沿岸にやってくると言われている、秋田の冬の始まりを告げる魚です。鍋や飯寿司にして食べるだけでなく、「しょっつる」という魚醤の原料ともなっています。近年は漁獲量の激減が問題となっています。

1. 担当職員 新聞専門部から1名、運営協力校から1名
2. 担当生徒 新聞専門部加盟校または運営協力校から2名
3. 取材人員 4班（5～8班、1班は生徒6人＋顧問2人が基本）、
担当教員2名、担当生徒2名、視察、全国理事 計38名前後
4. 取材対象 男鹿水族館G A O・秋田県水産振興センター
5. 移動手段 借り上げバス1台（大型バス）
6. 行 程

時刻	場所	移動	活動内容	備考
11:20	潟上市民センターかたりあん 出発	バス		
12:00	男鹿水族館G A O到着		12:00～12:20 説明 12:20～12:40 ・5班6班は裏側見学、質疑応答 ・7班8班は館内自由取材 12:50～13:10 ・7班8班は裏側見学、質疑応答 ・5班6班は館内自由取材	
13:20	男鹿水族館G A O出発	バス		
13:50	秋田県水産振興センター到着		14:00～14:40 ・2班に分かれて見学、見学をしながら質疑応答 ・スタッフ1～2名が案内	
14:50	秋田県水産振興センター出発	バス		
15:20	潟上市民センターかたりあん 到着			

7. 注意点

- ・熱中症対策として、各自帽子や水分補給等の準備をお願いします。
- ・靴を消毒液につける場面がありますので、それに適した靴での参加をお願いします。
- ・雨天が予想される場合は雨具の用意をお願いします。
- ・店舗や施設が営業中で、一般の方もいらっしゃるの、マナーを守って取材してください。
- ・写真撮影、取材は許可をいただいた場合のみ可能です。

C コース	「男鹿のナマハゲ」に迫る	男鹿市
----------	--------------	-----

ナマハゲ行事は毎年、大晦日の晩に男鹿半島のほぼ全域で行われる民俗行事です。昭和53年に「男鹿のナマハゲ」の名称で国重要無形民俗文化財に指定、また2018年にユネスコ無形文化遺産「来訪神：仮面・仮装の神々」のひとつとして登録されています。ナマハゲ行事について、またその行事に携わる人に取材するコースです。

1. 担当職員 新聞専門部から1名、運営協力校から1名
2. 担当生徒 新聞専門部加盟校または運営協力校から2名
3. 取材人員 4班（9～12班、1班は生徒6人＋顧問2人が基本）、
担当教員2名、担当生徒2名、視察、全国理事 計38名前後
4. 取材対象 なまはげ館・男鹿真山伝承館・真山神社・
ナマハゲ行事に携わる市外出身者
5. 移動手段 借り上げバス1台（大型バス）
6. 行 程

時刻	場所	移動	活動内容	備考
11:20	潟上市民センターかたりあん 出発	バス		
11:50	真山神社到着	徒歩	・神主さんから「なまはげ柴 灯まつり」等の説明と質疑 応答15分	
12:10	真山神社出発			
12:15	なまはげ館到着		・職員から解説5分、映画1 5分、質疑応答10分、館 内自由取材10分	
13:00	男鹿真山伝承館集合	徒歩	・大晦日のナマハゲ行事を体 験	
13:30	なまはげ館出発	バス		
13:50	テノハ男鹿到着	バス	・ナマハゲ行事に携わる市外 出身者である伊藤晴樹さん にインタビュー（活動の説 明10分、質疑応答20 分）	
15:00	テノハ男鹿出発			
15:20	潟上市民センターかたりあん 到着			

7. 注意点

- ・熱中症対策として、各自帽子や水分補給等の準備をお願いします。
- ・階段の昇り降り、山道などがありますので、歩きやすい靴で参加してください。
- ・雨天が予想される場合は雨具の用意をお願いします。
- ・店舗や施設が営業中で、一般の方もいらっしゃるの、マナーを守って取材してください。
- ・写真撮影、取材は許可をいただいた場合のみ可能です。

D コース	秋田の農業～つなぐ・つくる・つづける～	男鹿市・ 大潟村
----------	---------------------	-------------

農林水産省の発表によると秋田県の食糧自給率は 202%で全国 2 位（2023 年度）で、第一次産業は秋田県の重要な産業です。秋田県沿岸北部で盛んな梨の栽培と、大潟村産カボチャ「くり大将」を加工した人気商品「パンプキンパイ」の開発・販売について取材します。

1. 担当職員 新聞専門部から 1 名、運営協力校から 1 名
2. 担当生徒 新聞専門部加盟校または運営協力校から 2 名
3. 取材人員 4 班（13～16 班、1 班は生徒 6 人＋顧問 2 人が基本）、
担当教員 2 名、担当生徒 2 名、視察、全国理事 計 38 名前後
4. 取材対象 藤原梨園・大潟村干拓博物館・道の駅おおがた
5. 移動手段 借り上げバス 2 台（マイクロバス）
6. 行 程

時刻	場所	移動	活動内容	備考
11:20	潟上市民センターかたりあん 出発	バス		
12:00	藤原梨園到着		・ 梨園の見学、栽培と経営、 後継者について取材	雨天時室内で取材
12:40	藤原梨園出発	バス		
13:10	大潟村干拓博物館到着		・ 大潟村の農業について説明 30 分 ・ 自由取材 15 分	
14:00	大潟村干拓博物館出発	徒歩		
14:05	道の駅おおがた到着		・ パンプキンパイについて、 大潟村特産かぼちゃ生産組 合、日南工業大潟加工セン ターより講話、質疑応答 2 0 分 ・ 自由取材 15 分	
14:50	道の駅おおがた出発	バス		
15:20	潟上市民センターかたりあん 到着			

7. 注意点

- ・ 熱中症対策として、各自帽子や日傘、水分補給等の準備をお願いします。
- ・ 農園内見学があります。果樹園まで 5 分ほど歩きますので、歩きやすい靴で参加してください。
- ・ 雨天が予想される場合は雨具の用意をお願いします。
- ・ 店舗や施設が営業中で、一般の方もいらっしゃるの、マナーを守って取材してください。
- ・ 写真撮影、取材は許可をいただいた場合のみ可能です。

E コース	男鹿半島・大潟村ジオパーク～大地の歴史～	大潟村
----------	----------------------	-----

日本列島のでき方がわかる地層博物館・男鹿と、日本で2番目に大きかった湖の底にできた人工の大地・大潟。恐竜がいた7000万年前から現在までの大地の歴史、人の歴史を連続して見る事ができる日本唯一のジオパークを取材するコースです

1. 担当職員 新聞専門部から1名、運営協力校から1名
2. 担当生徒 新聞専門部加盟校または運営協力校から2名
3. 取材人員 4班（17～20班、1班は生徒6人＋顧問2人が基本）、
担当教員2名、担当生徒2名、視察、全国理事 計38名前後
4. 取材対象 男鹿市ジオパーク学習センター・寒風山・大潟村干拓博物館
5. 移動手段 借り上げバス1台（大型バス）
6. 行 程

時刻	場所	移動	活動内容	備考
11:20	潟上市民センターかたりあん 出発	バス		
11:40	男鹿市ジオパーク学習センタ ー到着		・ビデオ視聴による概要説明 15分	
12:35	男鹿市ジオパーク学習センタ ー出発	バス	・職員より館内説明15分 ・質疑応答、自由取材20分	
12:55	寒風山到着		・ジオパーク職員より眺望に ついての説明	
13:30	寒風山出発	バス		
14:00	大潟村干拓博物館到着		・館内説明40分	
15:00	大潟村干拓博物館出発	バス	・質疑応答、自由取材20分	
15:20	潟上市民センターかたりあん 到着			

7. 注意点

- ・熱中症対策として、各自帽子や水分補給等の準備をお願いします。
- ・階段の昇り降り、岩場などがありますので、歩きやすい靴で参加してください。
- ・雨天が予想される場合は雨具の用意をお願いします。
- ・店舗や施設が営業中で、一般の方もいらっしゃるの、マナーを守って取材してください。
- ・写真撮影、取材は許可をいただいた場合のみ可能です。

F コース	八郎湖の環境改善に向けた取り組み	大潟村・ 潟上市
----------	------------------	-------------

八郎湖の干拓後も残存湖では漁が行われており、ワカサギやシラウオ、シジミが有名です。農業・漁業振興、渡り鳥や八郎湖に生息する鳥類・魚類の生物多様性の保全、また悪臭被害の減少のために、秋田県は八郎湖の水質改善に取り組んでいます

1. 担当職員 新聞専門部から1名、運営協力校から1名
2. 担当生徒 新聞専門部加盟校または運営協力校から2名
3. 取材人員 4班（21～24班、1班は生徒6人＋顧問2人が基本）、
担当教員2名、担当生徒2名、視察、全国理事 計38名前後
4. 取材対象 大潟村干拓博物館・秋田県立大学大潟村キャンパス・
NPO法人はちろうプロジェクト
5. 移動手段 借り上げバス1台（大型バス）
6. 行 程

時刻	場所	移動	活動内容	備考
11:20	潟上市民センターかたりあん 出発	バス		
11:45	大潟村干拓博物館到着		・館内説明40分 ・質疑応答、自由取材20分	
12:35	大潟村干拓博物館出発	バス		
12:45	秋田県立大学大潟村キャンパス 到着		・秋田県立大学准教授による 講話「八郎湖残存湖と農業」 ・質疑応答、自由取材	
13:25	秋田県立大学大潟村キャンパス 出発	バス		
14:05	旧八郎潟展示館うたせ館到着		・NPO法人はちろうプロジェクト事務局による講話 「八郎プロジェクトの取組」 ・質疑応答、自由取材	
14:55	旧八郎潟展示館うたせ館出発	バス		
15:20	潟上市民センターかたりあん 到着			

7. 注意点

- ・熱中症対策として、各自帽子や水分補給等の準備をお願いします。
- ・雨天が予想される場合は雨具の用意をお願いします。
- ・店舗や施設が営業中で、一般の方もいらっしゃるの、マナーを守って取材してください。
- ・写真撮影、取材は許可をいただいた場合のみ可能です。

G コース	五城目町の文化振興と地域振興	五城目町
----------	----------------	------

雇用創出や地域経済の活性化の拠点となっている「BABAME BASE」(廃校舎を利活用し五城目町が開設した五城目町地域活性化支援センター)を取材します。また五城目町といえば、500年以上続き、今も地域の生活市として親しまれる朝市が有名です。この朝市通りで町内外の人が集まる場所を運営する方々を取材するコースです。

1. 担当職員 新聞専門部から1名、運営協力校から1名
2. 担当生徒 新聞専門部加盟校または運営協力校から2名
3. 取材人員 4班(25～28班、1班は生徒6人+顧問2人が基本)、
担当教員2名、担当生徒2名、視察、全国理事 計38名前後
4. 取材対象 BABAME BASE・五城目朝市通り(A)ものかたり(B)貸し棚おうみや
5. 移動手段 借り上げバス1台(大型バス)
6. 行 程

時刻	場所	移動	活動内容	備考
11:20	潟上市民センターかたりあん 出発	バス		
11:55 12:00 12:30	BABAME BASE 到着		・ドチャベンチャーズ理事より、活動紹介20分と質疑応答10分 ・施設利用者より、二拠点生活についての紹介15分と質疑応答10分	
13:00	BABAME BASE 出発	バス		
13:20 13:30 13:25	五城目朝市ふれあい館到着 (A)ものかたり到着 (B)貸し棚おうみや到着	徒歩	・活動紹介15分と質疑応答10分 ・活動紹介15分と質疑応答10分	AとBに2班ずつに分かれて移動
14:30	(A)(B)出発	徒歩		朝市通りを通り、自由取材を行いながらバスへ移動
14:50	五城目朝市ふれあい館出発	バス		
15:20	潟上市民センターかたりあん 到着			

7. 注意点

- ・熱中症対策として、各自帽子や水分補給等の準備をお願いします。
- ・雨天が予想される場合は雨具の用意をお願いします。
- ・店舗や施設が営業中で、一般の方もいらっしゃるの、マナーを守って取材してください。
- ・写真撮影、取材は許可をいただいた場合のみ可能です。特に「貸し棚おうみや」では一般利用者の方が写らないように気をつけてください。

H コース	農聖・石川理紀之介と花の町・昭和	潟上市
----------	------------------	-----

農村更生に尽力した「農聖」石川理紀之助の足跡をたどるとともに、「花の町」として知られる昭和地区を訪ねるコースです。石川理紀之助翁遺跡では秋田の農村再建の歴史や思想に触れ、ブルーメッセあきたでは花卉栽培や地場農産物など地域の取り組みを取材します。秋田の農と地域の営みを見つめます。

1. 担当職員 新聞専門部から1名、運営協力校から1名
2. 担当生徒 新聞専門部加盟校または運営協力校から2名
3. 取材人員 4班（29～32班、1班は生徒6人＋顧問2人が基本）、
担当教員2名、担当生徒2名、視察、全国理事 計38名前後
4. 取材対象 潟上市郷土文化保存伝承館・草木谷を守る会事務所・
道の駅しょうわブルーメッセ
5. 移動手段 借り上げバス1台（大型バス）
6. 行 程

時刻	場所	移動	活動内容	備考
11:20	潟上市民センターかたりあん 出発	バス		
11:40	潟上市郷土文化保存伝習館 （石川翁資料館・草木谷を守る会）到着		・説明30分 ・ビデオ視聴40分 ・質疑応答、自由見学20分	
13:40	潟上市郷土文化保存伝承館 出発	バス		
13:45	道の駅しょうわブルーメッセ 到着		・館内の植物ガイドの説明を受けながら見学30分 ・ブルーメッセの取組説明（生産者の声も交えて）40分 ・質疑応答、自由取材、休憩	
15:00	道の駅しょうわブルーメッセ 出発	バス	30分	
15:20	潟上市民センターかたりあん 到着			

7. 注意点

- ・熱中症対策として、各自帽子や水分補給等の準備をお願いします。
- ・雨天が予想される場合は雨具の用意をお願いします。
- ・店舗や施設が営業中で、一般の方もいらっしゃるの、マナーを守って取材してください。
- ・写真撮影、取材は許可をいただいた場合のみ可能です。

I コース	潟上市の伝統産業と文化振興	潟上市
----------	---------------	-----

秋田の水、風土が育む日本酒、みそ、しょうゆという日本の伝統的な発酵食品や、八郎湖残存湖で獲れるワカサギなどを使った佃煮といった伝統的な産業を取材するコースです。どちらの企業も、地域ににぎわいを創出する事業やイベントを展開しています。

1. 担当職員 新聞専門部から1名、運営協力校から1名
2. 担当生徒 新聞専門部加盟校または運営協力校から2名
3. 取材人員 4班（33～36班、1班は生徒6人＋顧問2人が基本）、
担当教員2名、担当生徒2名、視察、全国理事 計38名前後
4. 取材対象 小玉醸造（醸造元）・佐藤食品（佃煮専門店）
5. 移動手段 借り上げバス1台（大型バス）
6. 行 程

時刻	場所	移動	活動内容	備考
11:20	潟上市民センターかたりあん 出発	バス	・八郎潟干拓の歴史について 車内で説明	
11:35	八郎潟調整池		・車内から見学	
11:50	小玉醸造駐車場到着			
12:00	①ブルーホール②旧酒蔵		・15分ずつ、33班34班 が①→②、35班36班が ②→①見学	①②での飲食禁止
12:30	ブルーホール		・ビデオ鑑賞、社長より講 話、質疑応答	
13:00	③醤油・味噌蔵④店舗		・15分ずつ、33班34班 が③→④、35班36班が	
13:40	小玉醸造駐車場出発	バス	④→③見学	
13:50	佐藤食品工場到着			
13:55	⑤工場⑥休憩室		・⑤工場見学、⑥社長より講 話、質疑応答	工場見学時、衛生 キャップを着用
14:55	佐藤食品工場出発	バス	・30分ずつ、33班34班 ⑤30分→⑥、35班36 班⑥→⑤	⑤での飲食禁止
15:15	潟上市民センターかたりあん 到着			

7. 注意点

- ・熱中症対策として、各自帽子や水分補給等の準備をお願いします。
- ・店舗や施設が営業中で、一般の方もいらっしゃるのので、マナーを守って取材してください。
- ・小玉醸造の蔵の見学は、歩きやすい靴で参加してください。
- ・佐藤食品の工場見学では、衣類・私物でふわふわしたもの（ファーのようなもの）は異物混入の原因になるため、持ち込み禁止となります。またトイレはありません。
- ・写真撮影、取材は許可をいただいた場合のみ可能です。佐藤食品では、色彩選別器とオーブンの撮影は禁止となります。

J コース	変わりゆく海岸線～風力発電とともに～	潟上市
----------	--------------------	-----

秋田県の海岸線は年間を通して強い風が吹き、自然条件を生かせることから風力発電の建設が進められています。再生可能エネルギーを大量に導入できることで、カーボンニュートラルの実現に貢献できることが期待されています。

1. 担当職員 新聞専門部から1名、運営協力校から1名
2. 担当生徒 新聞専門部加盟校または運営協力校から2名
3. 取材人員 4班（37～40班、1班は生徒6人＋顧問2人が基本）、
担当教員2名、担当生徒2名、視察、全国理事 計38名前後
4. 取材対象 潟上市役所企画政策課・秋田潟上ウインドファーム合同会社
5. 移動手段 借り上げバス1台（大型バス）
6. 行程

時刻	場所	移動	活動内容	備考
11:20	潟上市民センターかたりあん 出発	バス		
11:35	潟上市役所到着	バス	・潟上市役所企画政策課に取材	
12:20	潟上市役所出発			
12:35	道の駅てんのう 到着	バス	・天王スカイタワーより風車群を展望 ・自由取材、休憩	
13:30	道の駅てんのう 出発			
13:45	陸上風力風車見学地到着	バス	・秋田潟上ウインドファーム合同会社に取材	
14:50	陸上風力風車見学地出発			
15:00	潟上市民センターかたりあん 到着	バス		

7. 注意点

- ・熱中症対策として、各自帽子や水分補給等の準備をお願いします。
- ・砂浜などがありますので、歩きやすい靴で参加してください。
- ・雨天が予想される場合は雨具の用意をお願いします。
- ・店舗や施設が営業中で、一般の方もいらっしゃるの、マナーを守って取材してください。
- ・写真撮影、取材は許可をいただいた場合のみ可能です。

K コース	秋田の教育～学びと自然との融合～	秋田市
----------	------------------	-----

秋田県立博物館は考古・歴史・民俗・工芸・生物・地質の6部門と、「菅江真澄資料センター」・「秋田の先覚記念室」からなる総合博物館です。周囲は県立小泉潟公園で、四季折々の景観とともに秋田の歴史や風土を感じながら、学ぶことができる教育環境を取材します。

1. 担当職員 新聞専門部から1名、運営協力校から1名
2. 担当生徒 新聞専門部加盟校または運営協力校から2名
3. 取材人員 4班（41～44班、1班は生徒6人＋顧問2人が基本）、
担当教員2名、担当生徒2名、視察、全国理事 計38名前後
4. 取材対象 秋田県立博物館・秋田県立博物館分館旧奈良家住宅
5. 移動手段 借り上げバス1台（大型バス）
6. 行 程

時刻	場所	移動	活動内容	備考
11:20	潟上市民センターかたりあん 出発	バス		
11:40	秋田県立博物館到着 ①人文展示室考古部門 ②人文展示室歴史部門 ③自然展示室自然部門 ④自然展示室生物部門		・見学しながら学芸員より説明90分 11:50～12:10 41班42班①、43班44班③ 12:10～12:30 41班42班②、43班44班④ 12:30～12:50 休憩 12:50～13:10 41班42班③、43班44班① 13:10～13:30 41班42班④、43班44班② 13:30～14:00 全班自由取材、休憩	
14:00	秋田県立博物館出発	バス		
14:10	秋田県立博物館分館旧奈良家住宅到着		・41班42班が母屋→付属屋 ・43班44班が附属屋→母屋	敷地内での飲食禁止
15:00	秋田県立博物館分館旧奈良家住宅出発	バス		
15:20	潟上市民センターかたりあん 到着			

7. 注意点

- ・熱中症対策として、各自帽子や水分補給等の準備をお願いします。
- ・雨天が予想される場合は雨具の用意をお願いします。
- ・店舗や施設が営業中で、一般の方もいらっしゃるの、マナーを守って取材してください。
- ・写真撮影、取材は許可をいただいた場合のみ可能です。

L コース	港町・土崎の歴史と文化～北前船と空襲～	秋田市
----------	---------------------	-----

土崎空襲は、秋田県で唯一の大規模空襲であり、日本で最後の空襲とされています。しかし2024年度以降の小学校の教科書で、空襲を受けた都市の地図から削除され、地元からは「ないものと思われないか」と懸念の声が出ています。北前船で賑わった時代から今日までの土崎の歴史を取材するコースです。

1. 担当職員 新聞専門部から1名、運営協力校から1名
2. 担当生徒 新聞専門部加盟校または運営協力校から2名
3. 取材人員 4班（45～48班、1班は生徒6人＋顧問2人が基本）、
担当教員2名、担当生徒2名、視察、全国理事 計38名前後
4. 取材対象 みなと歴史伝承館・秋田魁新報社社会部記者・道の駅秋田港セリオン
5. 移動手段 借り上げバス1台（大型バス）
6. 行 程

時刻	場所	移動	活動内容	備考
11:20	潟上市民センターかたりあん 出発	バス		
11:50	土崎みなと歴史伝承館到着		・伝承館職員に「土崎神明社祭の曳山行事」や「土崎空襲」、北前船」などについて取材	
12:50	土崎みなと歴史伝承館出発	バス		
12:55	北部市民サービスセンターキタスカ到着		・秋田魁新報社 社会部記者に「戦争遺産」特集について取材	
13:55	北部市民センターキタスカ出発	バス		
14:00	道の駅秋田港セリオン到着		・セリオン5F展望室より土崎地区を展望 ・自由取材、休憩	
14:50	道の駅秋田港セリオン出発	バス		
15:20	潟上市民センターかたりあん 到着			

7. 注意点

- ・熱中症対策として、各自帽子や水分補給等の準備をお願いします。
- ・雨天が予想される場合は雨具の用意をお願いします。
- ・店舗や施設が営業中で、一般の方もいらっしゃるのので、マナーを守って取材してください。
- ・写真撮影、取材は許可をいただいた場合のみ可能です。

10 研修取材

研修取材	千秋公園周辺 秋田市民俗芸能伝承館・旧金子家住宅 秋田県立美術館	秋田市
------	-------------------------------------	-----

秋田県中央部に位置し、古代城柵・秋田城が置かれるなど古くから北日本の要衝として発展してきた秋田市を巡る研修コースです。秋田市民俗芸能伝承館・旧金子家住宅では、竿燈まつりをはじめとする地域の伝統文化や町家の暮らしに触れ、秋田県立美術館では郷土ゆかりの美術作品を鑑賞します。さらに、久保田城跡を中心とした千秋公園のお堀沿いの遊歩道を散策し、城下町の歴史や自然景観を体感します。歴史・文化・自然を多角的に学び、秋田市への理解を深める内容です。

1. 実施日時 令和8年7月30日（木）14:20～17:30
2. 参加人員 参加者180名程度
担当職員5名+担当生徒5名+その他（視察等）
3. 取材先 秋田市民俗伝承館（職員による説明あり）
秋田県立美術館（学芸員による説明あり）
4. 移動手段 借り上げバス4台（荷物預かり場所ミルハスにて現地解散となります）
5. 行程

時刻	場所	移動	活動内容	備考
13:55	かたりあん多目的ホール		閉会式終了	
14:20	潟上市民センターかたりあん出発	バス		参加者はバスまで移動 （かたりあん駐車場） 担当職員が学校名・お名前を確認 大きい荷物はミルハスに預ける（1階練習室1）
15:10	あきた芸術劇場ミルハス到着			
15:20	秋田市民俗芸能伝承館到着	徒歩	取材時間 （40分）	
16:00	秋田市民俗芸能伝承館出発			
16:15	秋田県立美術館到着	徒歩	取材時間 （45分）	
17:00	秋田県立美術館出発			
17:10 ～	お堀の遊歩道散策	徒歩	散策時間 （20分）	荷物預けなしはこちらで解散
17:30	あきた芸術劇場ミルハス到着	徒歩		荷物受け取り
			解散	秋田駅までは歩いて10分弱

6. 注意点

- ・熱中症対策として、各自帽子や水分補給等の準備をお願いします。
- ・歩きやすい靴で参加してください。
- ・雨天が予想される場合は雨具の用意をお願いします。
- ・写真撮影、取材は許可をいただいた場合のみ可能です。当日説明があります。
- ・店舗や施設が営業中で、一般の方もいらっしゃるの、マナーを守って取材してください。
- ・一般の方に取材をする場合は、取材相手に了解をとったうえで行ってください。

11 令和8年度全国新聞専門部 役員名簿

部 会 長		堀越 英範	三重県立名張高等学校校長
副 部 会 長		杉谷 悟	三重県立相可高等学校校長
事 務 局 長		富安 道伸	三重県立相可高等学校教諭
事務局次長		瀧野 直哉	三重県立四日市南高等学校教諭
常任理事	北海道 地区	工藤 知美	北海道札幌南高等学校教諭
	東 北 地区	佐藤 泉	古川学園高等学校教諭
	関 東 地区	木南 景子	神奈川県立高浜高等学校定時制教諭
	北信越 地区	長丸 和生	高岡第一高等学校教諭
	東 海 地区	川口 量子	静岡市立清水桜が丘高等学校教諭
	近 畿 地区	佐賀 天真	滋賀県立膳所高等学校教諭
	中国四国地区	井上 加恵	香川県立三木高等学校教諭
	九 州 地区	安井 秀隆	長崎県立長崎南高等学校教諭
	年間紙面センター	佐賀 天真	滋賀県立膳所高等学校教諭
	指導者研修センター	木南 景子	神奈川県立高浜高等学校定時制教諭
理 事		各 県 1 人	各都道府県事務局長または全国担当者
監 事		福田 宜史	石川県立金沢錦丘高等学校教諭
		泉 順子	福岡県立修猷館高等学校教諭
顧 問		谷口 豊	前高文連全国新聞専門部事務局長

以上の任期は 2026 年度

全国高校新聞 年間紙面審査賞審査員	内山 康正	元全国高文連新聞部門常任理事
	菅野 昭浩	元北海道高文連役員
	武内 義明	元高文連全国新聞専門部常任理事
	鎌田 寛二	元全国高文連新聞部門常任理事
	中根 淳一	元高文連全国新聞専門部常任理事
	山本 紀子	元兵庫県立高校新聞部顧問

以上の任期は 2024 年 9 月 1 日 ～ 2026 年 8 月 31 日

年間紙面審査賞事務センター	佐賀 天真	滋賀県立膳所高等学校教諭
指導者研修センター	木南 景子	神奈川県立高浜高等学校定時制教諭

緊急時の対応などについて（参加生徒・参加校の皆様へ）

I 大会参加に当たっての留意事項

1 健康（体調）管理に十分気をつけてください。

- ① 大会参加時のマスクの着用は、個人の判断に委ねます。ただし、感染防止対策としてマスクの着用が効果的な場面等や症状がある場合等においては、マスクの着用を推奨します。
- ② 感染症の接触感染を避けるため、屋外から室内へ入る時、トイレの後や食事の前後など、こまめに手を洗い、手指衛生に努めてください。
- ③ 他者に飛沫を飛ばさないよう、咳・くしゃみをする時は、ティッシュ・ハンカチや袖・肘の内側などを使って、口や鼻を押さえ、咳エチケットを行ってください。
- ④ 夏は高温多湿のため、「熱中症」「食中毒」が発生しやすい時期ですので、十分注意してください。
- ⑤ 医療機関での受診費用は実行委員会では負担できません。
なお、マイナンバーカードがない場合は、医療費全額が実費負担となる場合があります。

2 大会参加時のお願い

- ① 引率者は、感染症予防のため、最新の情報を確認の上、移動中や宿舎内等の大会会場外においても、適切な指導を行ってください。
【参考】文部科学省「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル（2023.5.8～）」
https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_00029.html
- ② 引率者は、参加生徒の健康状態を把握しておいてください。※特にアレルギー、心臓疾患等の症状などまた、大会期間中は、朝食時等に参加生徒の健康観察を行ってください。
- ③ 体調不良（感染症の疑い等）がある場合は、直ちに引率者に相談の上、医療機関を受診し、適切な対応をとってください。
- ④ 大会期間中に医療機関を受診した場合は、大会公式ウェブサイトの【受診報告フォーム】から必ず報告してください。
- ⑤ 救護所に内服薬は置いていません。日頃服用している常備薬を、必ず持参してください。

3 貴重品・手荷物は自己管理してください。

4 自然災害に備えましょう。

- ① 注意報、警報等の気象情報については、テレビ、ラジオ、携帯電話等で早めに把握してください。
- ② 災害時の安否確認
地震などの大きな災害発生時に、被災地等への安否確認のため、下記のサービスが利用できます。
詳しくは各電話会社に確認してください。
○災害用伝言板サービス（携帯電話） 携帯電話会社各社から提供されています。
○災害用伝言ダイヤル「171」（一般電話、公衆電話、携帯電話）NTTから提供されています。
URL : <https://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171s/goriyou.html>

5 ツキノワグマに注意してください。

- クマに出会わない・鉢合わせを避ける
- もしもクマと出会ってしまったら

声や音で人の存在をアピールする。
ゆっくり後ずさりしてクマとの距離を取る。

背中を見せて走ってはいけません！

近くに建物や車があれば、その中に避難する。

障害物（電柱・塀・木）を挟むように後ずさりする。

- もしもクマに襲われそうになったら

顔と頭を守る（両手を首の後ろで組んで顔を地面に伏せる姿勢をとる）。

来県前に秋田県が公開している動画の視聴及び秋田県公式サイトからツキノワグマ情報を確認することをおすすめします。また、引率者の方は秋田県公式サイトに掲載されているクマダスに登録するなどして、秋田県や開催自治体が発信する情報をこまめにチェックしてください。

- ・ツキノワグマ出前講座動画（生態編） <https://www.youtube.com/watch?v=8bdPijwUBv4>
- ・ツキノワグマ出前講座動画（対策編） <https://www.youtube.com/watch?v=-u454veU0Tk>
- ・美の国あきたネット（秋田県公式サイト） <https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/23295>

II 緊急時の情報収集

緊急時の大会開催については、大会公式ウェブサイトの「お知らせ」で情報を確認してください。

併せて大会公式SNS（インスタグラム）でも緊急時の情報発信を行います。

迅速な情報取得のため、事前にフォローをお願いいたします。



大会公式ウェブサイト



大会公式インスタグラム

III 開催計画変更時の対応

緊急時、当日の部門大会開催情報は随時更新されますので、大会公式ウェブサイトの「お知らせ」などにより、最新情報を入手してください。

当日の部門大会 開始時刻の繰り 下げの場合	宿舎又は自宅に いる場合	・部門大会開催情報が更新されるまでは、原則として、宿舎又は自宅で待機してください。 ・警報などが解除され、当日の開催を決定した時点で、大会公式ウェブサイト等に掲載しますので、確認してください。
	移動中の場合	原則として、宿舎又は自宅に戻ってください。その際、移動中の状況により、引率者が、戻るか会場に向かうかを判断してください。
	会場にいる場合	部門責任者の指示に従い、行動してください。
当日の部門大会終了時刻の繰り上げ が決定された場合		部門責任者の指示に従い、行動してください。
当日の部門大会が開催中止となった 場合		特に連絡のない限り、宿舎又は自宅で待機してください。開催会場は、原則として、開場しません。

Ⅳ 体調不良者やけが人が発生した場合の対応

1 会場における救護

各会場には救護所を設置しています。体調不良やけがをした参加者等に対して応急処置を行います。
なお、医療機関での診療等が必要な場合は、医療機関を案内するほか、緊急を要する場合は、救急車の出動要請を行いますので、引率者は必ず同行してください。

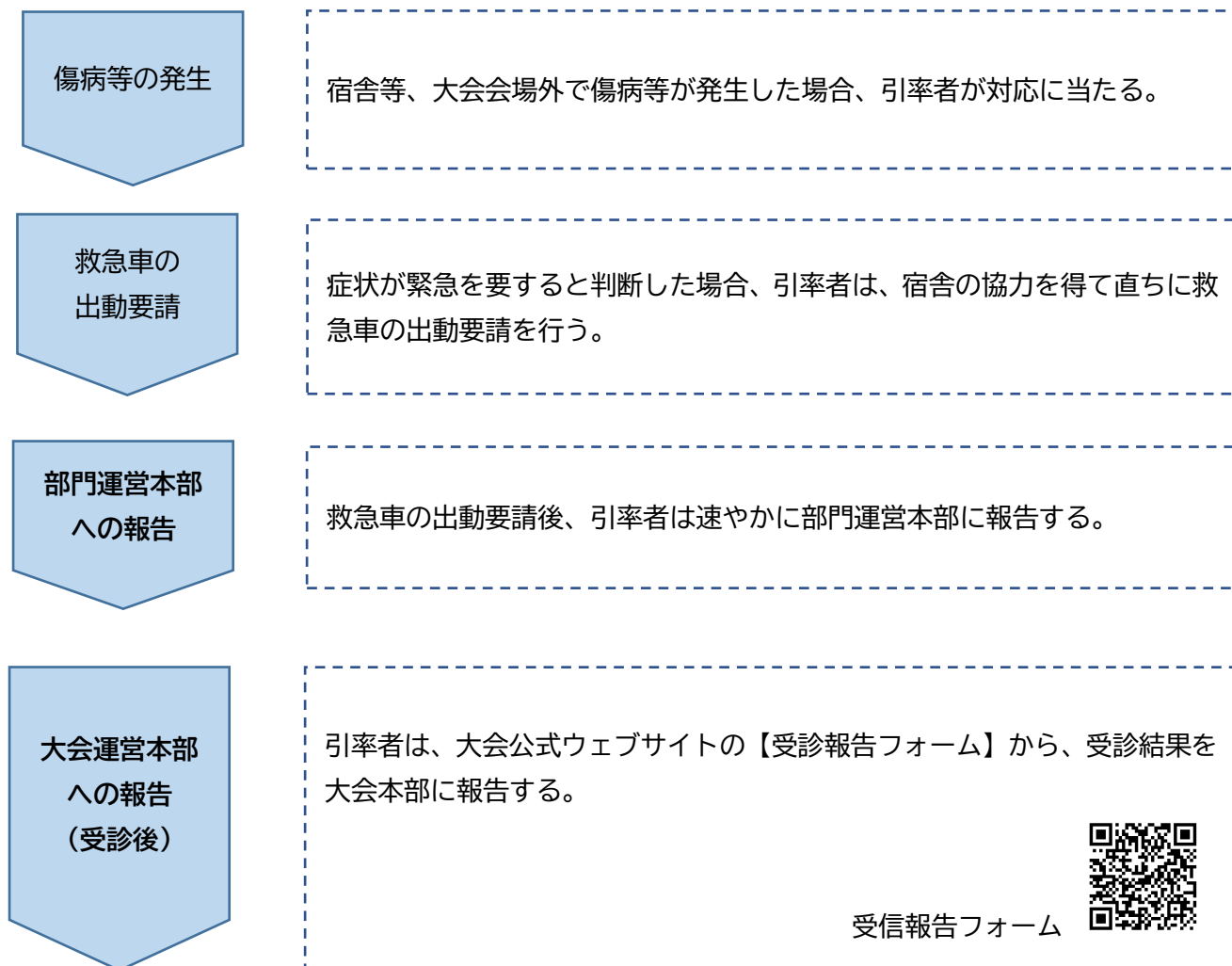
2 宿舎等での対応

宿舎等で傷病者が発生した場合、引率者は必要に応じ、救急車の出動要請や医療機関での受診等を行うようにしてください。いずれの場合も引率者は必ず同行してください。（次頁の「大会会場外における救護対応フローチャート」をご覧ください）

※軽度の傷病を除き、受診後は、大会公式ウェブサイトの【受診報告フォーム】から必ず報告してください。

3 大会会場外における救護対応フローチャート

① 緊急を要する場合



② 緊急を要しない場合

傷病等の発生

宿舎等、大会会場外で傷病等が発生した場合、引率者が対応に当たる。

救急車要請の判断

引率者は、救急車の出動要請を行うか判断する。

医療機関等の確認

救急車の出動要請は必要ないと判断した場合、引率者は、宿舎の協力を得て、医療機関等を確認する。実際に受診する際は、事前に医療機関に受診の可否を確認する。

大会運営本部への報告 (受診後)

引率者は、大会公式ウェブサイトの【受診報告フォーム】から、受診結果を大会運営本部に報告する。

受信報告フォーム



- 受診可能な医療機関等を探すには、「医療情報ネット（ナビイ）」で検索
<https://www.iryuu.teikyouseido.mhlw.go.jp/znk-web/juminkanja/S2300/initialize>

V 不審者、不審物への対応

不審者、不審物を発見した場合は、直ちに近くの運営スタッフにお知らせください。

自身の安全を第一に考えて行動し、不審者に対しては無理に立ち向かおうとせず、危険を感じた場合は大声で助けを呼んでください。

また、不審物には触れないようにお願いします。

VI 緊急連絡先（大会期間中）

新聞部門運営本部

080-5503-3556

第50回全国高等学校総合文化祭（あきた総文2026）における 個人情報の取扱いについて（参加者の皆さんへ）

第50回全国高等学校総合文化祭（あきた総文2026）への参加申込書を提出された方の個人情報については、次のとおり取扱うことになりますので、御了承ください。

なお、この取扱いは、準備活動、練習、広報PR活動、開催日における運営等、関連行事のすべてが対象となります。

1 個人情報の内容

- (1) 参加者の氏名、学校名、学年、性別
- (2) 競技・審査結果
- (3) 参加者及び展示発表作品の写真、映像等

2 個人情報の利用目的

- (1) プログラム、部門作品集等への掲載
- (2) 実施要領、運営要領等への掲載
- (3) 展示キャプション等への掲載
- (4) 会場内アナウンス等
- (5) 大会公式ウェブサイト、大会公式SNS、記録集、記録DVD等記録関係資料への掲載
- (6) 報道機関等への提供（テレビ、ラジオ、ウェブサイト、新聞、雑誌等に写真や映像が使用されることがあります。）
- (7) 総文祭後催県、地方公共団体等への提供
- (8) WEB開催及びオンライン配信実施時の放映（一部を変更して用いることがあります。）

3 個人情報の適正管理

取得した個人情報を前記に掲げる利用目的以外に使用することはありません。ただし、緊急の場合、医療機関等との間で個人情報を提供又は収集することがあります。

4 その他

- (1) 演奏、演技、展示、競技等の様子について、実行委員会事務局の許可を得た事業者が撮影を行うことがあります。
- (2) 個人情報の取扱いについて御不明な点があれば、実行委員会事務局にお問い合わせください。

<問合せ先>

第50回全国高等学校総合文化祭秋田県実行委員会事務局

（秋田県教育庁高校教育課全国高等学校総合文化祭推進室内）

TEL：018-860-1433 E-mail：kousoubun2026@pref.akita.lg.jp